

1・20法大包围デモへ!

2015年12月7日
No.346

Tel 03-3651-4861
mail_cn001@zengakuren.jp
http://www.zengakuren.jp/

全学連(斎藤郁真委員長) 書記局通信

「2016年に全国大学反戦ストを!!」



12/5全学連拡大中央委うち抜く!

斎藤委員長のまとめのあいさつ!

本日の拡大中央委員会では、時間が足りなくなるくらい多くの発言がありました。2016年に向かって、非常に重要な土台をみんなで作ることができました。

本日の議案と討論で重要なことは、あらためて「法大闘争に勝利しよう!」と全体で決意をうち固めたことです。

いま一つは、10月の京大バリケード・ストライキの総括論議を深められたことです。2015年の全学連運動の集大成、2016年の全学連運動の指針として京大バリストがあつて、それを全力でうち抜いたからこそ見えてきた課題に、いま私たちは挑戦しています。京大の仲間たちから提起された「課題」は、私たちがこれから自らの大学で闘う時に必ず問われる「課題」です。全学連は全体の問題としてこれらに真摯に向き合っていかなければなりません。

私がここで強調したいのは、「全学連がいかなる立場で何の

ために運動をやっているのか?」が根底的に問われている、ということです。「民主主義」についての議論もありましたが、私たちは「民主主義」のために学生運動をやっているわけではありませんよね? 僕らは「労働者階級の勝利」のために闘っています。最初は、「民主主義」をめぐる大衆的論議から始まることはあります。私も同じです。法政大の中で自由にピラマキができないことに対して「学問の自由」を要求したら、「学問の自由」の名をもって私は法学部教授会に「退学」処分されました。「これが民主主義か!?!」と。

共産主義者の立場から言えば、思想は現実から生まれます。「イデオロギーには唯物的根拠がある」という話で、そもそも「民主主義」について僕らが語らなければならない理由は、現実に「民主主義」の名を借りた支配があるからです。資本家階級の支配に対して、「私たち民衆が主人公なんだ!」という意味を込めて、僕らは「民主主義」という言葉を使うことはあります。だから、そもそも「民主主義について語らなくちゃいけないー考えなくちゃいけない状態」をなくすことが、僕らの「民主主義」に対する本当の回答です。

「民主主義」をのりこえる闘いをやらなくちゃいけない。その立場から考えた時、結局は、僕らは一人ひとりが「民主主義」という言葉をどういう思いで使っているのかが問題になるし、それは「階級性」を問うことでしか判断できないわけです。例えば、韓国・民主労総のハン・サンギョン委員長が「民主主義」を掲げて、11月14日に15万人のソウル都心デモを組織しました。韓国の人口は約5100万人です。民主労総は約70万人の組合員です。それに対して、11・14民衆総決起大会は15万人の参



加です。15万人がソウルの街を武力で占拠して、車の交通などを全部止めちゃうわけです。そういう意味では、「少数の人間」が「民主主義」を掲げて決起している。しかし僕らは、この闘いに心から感動するわけです。それを「民主主義だ」と思うわけです。僕らは労働者階級の立場から民主労総の闘いを見るから、それを「民主主義だ」と思うわけです。

逆にブルジョアジーは、「それは民主主義の破壊だ」と言うわけです。むしろ、イラクやシリアに対する空爆と虐殺を「自由と民主主義のためだ」と言うわけです。僕らはそういう「民主主義」を絶対に認めないし、結局それは、私たち労働者・学生と、ブルジョアジーの語る「民主主義」の「民」の中身、「市民」の中身が、労働者なのかブルジョアジーなのか、の違いがあるわけです。どちらの「民」の立場に立っているのかわかっていますが、いま問題になっているわけです。

「大学自治」の問題も同じです。「何のために大学自治があるのか？」ということです。「大学がどういう環境の中に存在しているのか？」ということです。軍事研究一般の是非が問題なのではありません。例えばノーベルが19世紀にダイナマイトをつくった。もともとは岩盤掘削用です。「平和的目的」のためにダイナマイトは製造された。しかし、ダイナマイトは歴史的には軍事目的で使われました。資本主義社会の中では、資本家が労働者を搾取し、金銭も工場も握り、生産手段を独占的に私有し、どこにどう予算を分配し、どういう技術を開発するか。これらすべてを資本家階級が握っているわけです。だから、この社会では、大学の工学部は自分たちのつくった機械をブルジョアジーに売り込む以外にないし、そういう工学技術はブルジョアジーと結びついて使われていく。

最近、山本義隆さん(元東大全共闘議長、現科学史家)が講演会で語っていました。戦後まもなく、日本学術会議が日本の自然科学者にアンケートをやって、「あなたにとって『研究の自由』が一番あったのはいつですか?」と質問したら、一番多かった回答が「戦争中」でした。アジア侵略戦争と太平洋戦争の間、理工系の研究者にとって「我が世の春」だったそうです。つまり、戦争中に理工系の学問はすべて軍事研究に役立つから、じゃぶじゃぶと予算がつぎ込まれました。逆に文系学部は「京大・滝川事件(1933年の思想弾圧事件)」なども有名ですが、弾圧の標的となって教授・学生が大学から追放されていく。

これが今の社会の厳然たる現実です。「学問の自由」なんて言葉は、「労働者階級か」「資本家階級か」、どちらの立場から見ると全然意味が変わってくる。一般的な「学問の自由」なんて、本来はないんです。何に学問が使われ、何のために僕らが学ぶのか、何のために僕らは生きるのか。そうした問題をめぐって闘う中でしか、何が「学問の自由」なのかは決まら

ない。中立的な「大学自治」「学問の自由」なんて存在しない。

「もう二度と人間の精神(人間の知性の産物)が人殺しの道具に使われないために、人殺しのために俺たちは生きているんじゃないじゃねえ!」ということをはっきりさせるために、大学は「反戦の砦」にならなくてはならない。「大学自治」は、労働者階級の勝利のために必要なんです。「学生が青春を謳歌する」、それも重要ですが、それだけじゃなく、本当に僕たちが人間らしく生きていくための「大学自治」をつくる必要があります。

「民主主義」をのりこえ、マルクス主義の立場から僕らは運動をつくり出していく。法大闘争の歴史は、「『民主主義』なんてくそくらえ!」って歴史でしたし(笑)、法大文化連盟は一貫して「過激派」として誹謗中傷されてきましたが、しかし法大の中で最も明るい勢力として存在してきました。

人間の生活が全部人殺しの道具に使われる時代は、逆にそれに対して非合法的手段も含めて決起する。「過激」な行動の中に真の人間性があります。来たる2016年、本当に怒りを燃やしているが怒りの声をあげることができない、そういう青年・学生の存在を信じて、全学連は飛躍をかけて闘いに立ち上がる必要があります。あらためて、僕らの目指す「学生自治会建設運動」というのは、「民主主義を一般的につくる」運動ではないんだということをはっきりさせたい。もちろん現実の運動の中で、大衆的にどこまで一致を深められるかの問題があります。時には妥協を迫られることもあるし、「とりあえずはここまでの一致でいこう」という時もある。しかし、「僕らが何のために活動しているのか」からすべてを規定して、“自分たち自身を低くしていく”傾向と何度でも対決しなければならない。そういう時に軸になるのが法大闘争なんです。

あえて言えば、法大闘争は徹底的に「民主主義」なんて関係ない闘いだ。一人の仲間も見捨てない「労働者階級の団結にかけて闘い抜く」からこそ、処分撤回を焦点にした法大闘争を今こそ勝利させたいし、その内容ですべての学生に応えられるストライキをやりたい。「民主主義を破壊する」行為を、「労働者階級の正義」を掲げて貫徹する。

問われているのは僕らの側です。僕らがどういう運動を提起して、どういう一致をつくるのか。逆にそれがあいまいであれば、『前進』に即して言えば、“革命党の言っていることと労働組合(学生自治会)でやっていることが違う”場合に、革命党の全力での闘いと、それとともに闘う労働者・学生の意見が一致しないことが起こる。その課題をのりこえよう。

2016年、もし衆参ダブル選挙になったとしても、私たちは断固闘いに立ち上がりましょう! 本日の議案をもとに徹底的に討論し、団結を固め、そして21世紀革命=世界の根底的変革に挑戦していこう! 来年も頑張ろう!

【当面する行動方針】

●1・20法大包囲デモ ～法大闘争10年! 武田君処分撤回!～

1月20日(水) 12時半に市ヶ谷キャンパス集合→13時にデモ出発(13時半に終了予定)

【呼びかけ】法政大学文化連盟/全学連

●武田雄飛丸君「無期停学」処分撤回裁判控訴審・第2回

1月20日(水) 14時半～ 東京高裁822号法廷にて



1・20法大包围デモへ!

2015年12月8日
No.347

Tel 03-3651-4861
mail_cn001@zengakuren.jp
http://www.zengakuren.jp/

全学連(斎藤郁真委員長) 書記局通信

12/6「許すな改憲・江戸川集会」に

韓国・民主労働学生スト連帯、戦争絶滅反対!
許すな改憲 江戸川集会



江戸川総合文化センターにて

160人が結集!⇒船堀駅までデモ!

斎藤委員長のアピール!

私たち全学連が最大の焦点として取り組んできたのは、法政大学の闘いです。約10年に渡って「のべ126人の逮捕、34人の起訴」があり、13人の学生が停学・退学処分になりました。この法大闘争を全面的に支えてくれた法大闘争弁護団長が鈴木たつお弁護士です。労働者・学生の現場の闘いと徹底的に連帯して闘い抜いてきた、こういう方こそがもっと社会の全面に出るべきであり、全学連は来年の7月参院選に鈴木たつおさんを押し立てて断固闘って

いきます。全面的に協力してともに闘い抜きます。

プログラムで「全国大学反戦ストライキで戦争をとめよう!」と紹介されました。日々新聞を開けば、「戦争」とか「経済危機」とか暗いニュースばかり出てきますし、フランスの「11・13パリ事件」、そしてトルコ軍によるロシア軍機撃墜事件をもって、戦

争が遠い昔 - 遠い将来の話として語られることはなくなりました。戦争の危機感が社会的にますます募っていく中で、「じゃあ戦争をどうやって止めるのか?」という問いへの回答が求められています。

全学連はこの情勢に対し、「自分たちの大学からストライキをやって戦争を止めよう!」と訴えてきました。なぜなら、大学の中で戦争は具体的に始まっているからです。大学の中でいま、軍事研究が進んでいます。「文系学部が目的を変えなければ予算を廃止する」ということや、大学





鈴木たつお弁護士から参院選出馬の決意！

の入学式・卒業式で「日の丸を掲揚し、君が代を斉唱しろ」とも言われ始めています。それと一体で「経済的徴兵制」も進んでいます。国立大学の学費が「これから16年間かけて約40万円上がる」という試算が出されました。現状でも私立大学の年間学費は平均値で90万円をこえて、初年度入学金では120万円をこえています。そこで、国立大学の学費も一気に100万円近くにはね上がる。

貧困層や貧困学生が、軍隊と戦争に駆り出されていく。日常の職場やキャンパスで、戦争が当たり前のものになる。軍事研究が日々の授業に組み込まれる。軍事物資の生産が日々の労働に組み込まれる。こういう状況が「当たり前」になろうとしています。

だから今、私たちは自分たちの現場・日常から、「『当たり前のこと』を拒否する力」を取り戻さなくてはなりません。この間全学連はそういう挑戦をしてきて、10月27日に京都大でバリケード・ストライキを行いました。まだまだ私たちの力が小さい中で、理想的なことを言えば、全京大生が同時に授業を放棄して街頭へ出るべきだし、全学ストライキをやりたいのが本心です。しかし、私たちはまず最初に、「この時代に自分たちが行動し決断する勢力であることを示さなくてはならない」という思いで、とりわけ同じ思いで闘う、韓国やトルコやドイツ、アメリカの仲間たちに伝えるために、「俺たちは闘うんだ！」ということを示すために、京都大に全国学生の全力を結集させて、バリストを行いました。

こういう闘いをもっと広めていくと同時に、本当に安

倍政権を倒して労働者・学生が権力を取ることが問題になっています。だから、私たちは今こそ新しい労働者の政党を、青年・学生が先頭でつくらなければなりません。学生は事実上、労働者階級です。なぜなら、大学を資本家階級自身が最初から「就職活動の場」と位置づけ、学生に就活を強制する。学生が就活を一生懸命やらなくてはいけない理由は、どこかの資本家に必ず雇われなければ生きていけないからです。私たちは、「労働しなければ生きていけない存在」として、「資本家に搾取されなければ生きていけない存在」として、最初から大学の中で扱われています。だから、大学の問題は単なる「学問の問題」「学生という社会の一階層の問題」ではなく、学生も労働者も「労働者階級」として、「資本家こそが敵だ」とはっきりさせて、資本家をうち倒す労働者の政党をつくることに挑戦していきます。その最初の突破口として、鈴木たつおさんの参院選勝利をかちとります。そして、2016年に全国大学でストライキに挑戦していきます。

来年の参院選ではおそらく、「18歳以上への選挙権付与」で、すべての大学生が選挙権を持ちます。東京都在住の大学生の数は50万人とも60万人とも言われていますが、私たちは大学からストライキができる闘いを通して、学生自治会を甦らせませす。そうした学生の力で参院選にも勝利します。本日の集会後のデモでも最先頭に立ちます！



江戸川区松江1丁目を圧倒的にデモ！

【当面する行動方針】

●1・20法大包围デモ ～法大闘争10年！ 武田君処分撤回！～

1月20日(水) 12時半に市ヶ谷キャンパス集合→13時にデモ出発(13時半に終了予定)

【呼びかけ】法政大学文化連盟／全学連

●武田雄飛丸君「無期停学」処分撤回裁判控訴審・第2回

1月20日(水) 14時半～ 東京高裁822号法廷にて

